

南箕編村誌

下
卷
歷
史
編



南箕輪村役場

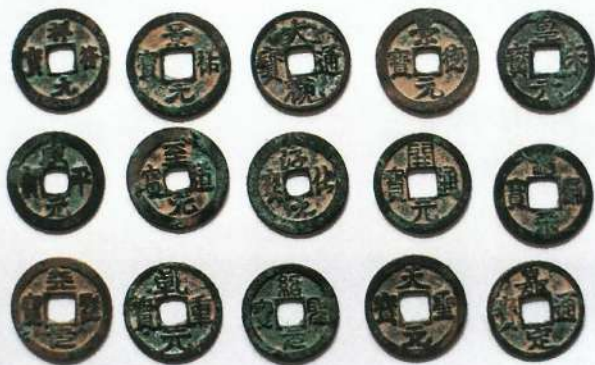


大芝スポーツ(都市計画)公園全景(昭和59年末)

神子柴橋田から出土した古銭 1



神子柴橋田から出土した古銭 2



大泉上総とある石碑



近世久保村居の図



旧入会山北沢山の現在の林相



南箕輪小学校



南箕輪中学校



西部地区館

西部保育所



伊那農協りんご集出荷場

刊行にあたって

南箕輪村長
村誌編纂委員長
三 沢 準

村制施行百年記念事業の一環として、『南箕輪村誌』の刊行が計画され、すでに昨五十九年末上巻(自然・遺跡・信仰生活・民俗各編)の発刊をみました。内容体裁ともに稀にみるすばらしい出来栄えとの好評で、文字通り後世に残る「村誌」と自負しております。

このたび昨年引きつづき、下巻(歴史編)発刊の運びとなりました。古代から現代に至るまでの村の歴史を現存する資料をもとに、なるべく平易に詳述したもので、編さん委員の方々の心血を注いでの集大成と言っても過言ではありません。

村を理解するには、その歴史をひもとくことから始まると言われます。真の村の姿を知り、心から村を愛することによって村の進むべき方向がおのずから定まります。この美しい郷土「南箕輪」を永遠ならしめるためにも、村誌上下二巻を座右の書としてご愛読賜わらんことを心からお願ひ致します。

「新しい産業と文化で築く、平和と緑の南箕輪」を目ざし、二十一世紀へ向けて村づくりが始まっています。村誌上下二巻の完成をみ、ここに執筆・編集・刊行に関係された皆さん、高度な印刷技術を駆使された株式会社「ぎょうせい」の皆さん方に深甚なる敬意と感謝を捧げて刊行のことばと致します。

昭和六十年十月三十日

凡 例

一、「南箕輪村誌」は、上下二巻とし、上巻には自然・遺跡・信仰生活・民俗の四編を、下巻は歴史編（原始・古代・中世・近世・現代）の一編をもって編集した。

二、上巻を自然編・遺跡編・信仰生活編・民俗編として、太古から今日にいたる村人の、基礎的な生活の流れをみ、下巻を歴史編として、原始から古代・中世・近世・現代へと一貫して記述した。

三、だれにでも読まれるようにと、義務教育終了程度を目途として、記述はできるだけ平易に努め、次の諸項目に留意した。

- (1) 写真や図表を多くして、親しみやすくした。
- (2) 目次をなるべく詳細にして、索引を兼ねるようにした。
- (3) 和暦対照表をシオリに印刷した。
- (4) 本文は、常用漢字、現代仮名づかい・送り仮名のつけ方を原則とした。固有名詞・専門用語等やむをえな
いものには振り仮名をつけたり、（ ）で説明を加えたりした。
- (5) 引用文は、ほぼ原文を尊重したが、白文を読み下し文に改め、また「（コト）、ゆ（ヨリ）、与（ト）、而
已（ノミ）などは読みやすく改めた。
- (6) 度量衡については、当時実際に使用していた単位を用い、いちいちメートル法に換算することを省略し
た。なお、換算表を上巻のシオリに印刷した。
- (7) 年号は、和暦を用い、江戸時代までのものには西暦をカッコで付記した。
- (8) 数字は原則として略記法とするが、万・億はつけることにした。たとえば二万三千四百五十円を「二万三
四五〇円」と記述した。
- (9) 度量・比率・温度等の単位は、kg（キログラム）・t（トン）・m（メートル）・ha（ヘクタール）・℃（摂
氏温度）などの略記号を用いた。

四、写真・図表については次のようにした。

- (1) 執筆者・編集関係者でないものだけに、撮影者名、提供者名などを記した。
- (2) 必要と思われるものには撮影年月日を記した。

五、人名の敬称はすべて省略させていただいた。

六、部落という用語は民家の一群・村の一部として地縁地域の意味だけに使用した。

七、参考文献とか参考図書を巻末に記載することはすべて省略させていただいた。

目次

刊行にあたって

凡例

歴史編

第一章 村の生い立ち

第一節 村のあけぼの

一	一 南箕輪のあけぼの	一
一	(一) 生活の舞台としての南箕輪	一
二	(二) 先土器(無土器)時代の南箕輪	二
二	1 南箕輪における人間生活の始まり	二
三	2 先土器・旧石器時代の編年	三
三	3 神子柴遺跡の性格	三
六	(三) 縄文文化時代の南箕輪	六
六	1 南箕輪における縄文時代遺跡の分布	六
七	2 縄文時代の生活	七
五	(四) 弥生文化時代の南箕輪	五
五	1 弥生文化の波及と遺跡の分布	五
八	2 弥生文化時代の生活	八
六	第二節 村の古代	六
六	一 古墳文化時代	六
六	(一) 古墳文化時代とは	六

七	(一) 村内における古墳文化時代の遺跡	七
九	(二) 諏訪の「くに」の中の南箕輪	九
三	(四) 農耕生産の発展	三
三	(五) 古墳時代の住生活と家族	三
六	(六) 畿内勢力の侵透	六
九	(七) 大和政権の地方支配	九
四	二 律令制時代	四
四	(一) 律令体制の成立	四
四	(二) 国・郡・里(郷)制	四
四	1 国の成立と国司	四
四	2 郡と郡司	四
四	3 里・郷	四
五	4 伊那郡と諏訪郡の郡境	五
五	(三) 班田收授体制	五
七	(四) 税制と農民の負担	七
七	1 租(たちから)	七
七	2 調(みつき)	七
七	3 庸(ちからしろ)	七
七	4 雑 徭	七
七	5 其の他の負担	七
三	(五) 農村の生活	三
三	(六) 交通制度の発達(東山道)	三
三	三 荘園制の成立発展と武士の発生	三
五	(一) 律令制の変容	五
五	(二) 荘園の成立と発展	五
五	1 荘園制の概要	五
五	2 郷土における荘園	五

(三) 莊園制下の農村の姿……………	五九
1 莊園内耕地の構成と経営形態……………	五九
2 農民の負担……………	五九
3 農耕技術……………	五九
(四) 武士の発生……………	六〇
1 概 説……………	六〇
2 郷土における武士の発生……………	六二
第二章 村の中世……………	六三
第一節 武家政権の成立と伊那……………	六三
一 藤原庄と我が郷土……………	六三
二 鎌倉時代の伊那……………	六四
(一) 治承・寿永の争乱と伊那……………	六四
(二) 伊那諸族の台頭……………	六六
1 伊那源氏の諸士……………	六六
2 神氏一統……………	六七
三 南北朝の争乱と伊那……………	六七
(一) 鎌倉幕府の滅亡……………	六七
(二) 北条時行と伊那……………	六八
1 中先代の乱……………	六八
2 大徳王寺城の戦い……………	六九
(三) 宗良親王と伊那……………	七〇
四 室町時代の伊那……………	七〇
(一) 信濃の守護と国人衆……………	七〇
1 守護小笠原氏と伊那……………	七〇
2 大塔合戦と伊那の諸氏……………	七二

3 結城合戦と伊那衆……………	七二
(二) 内乱の中の伊那の諸氏……………	七二
1 守護小笠原氏の分立抗争……………	七二
2 諏訪上下社の抗争……………	七二
3 戦乱時代のはじまり……………	七三
第二節 戦乱の時代……………	七四
一 武田氏の伊那経略……………	七四
(一) 武田氏の侵入……………	七四
(二) 武田氏の伊那統治……………	七六
二 織田氏の侵入……………	七八
三 南箕輪の城跡と豪族……………	八二
1 棚木城跡……………	八二
2 中込城跡……………	八二
3 倉田の城跡……………	八二
4 有賀の城跡……………	八四
5 清水城跡……………	八四
6 日戸氏の館跡……………	八四
7 古城跡……………	八四
8 内城跡……………	八五
9 宮島氏館跡……………	八六
10 大泉氏の館跡……………	八六
11 座籠城跡……………	八七
12 田中城跡……………	八六
第三節 中世の社会と生活……………	八六
一 集落の位置と大きさ……………	八六
二 農民(莊民)の負担……………	八八
(一) 年 貢……………	八八

目 次

(一) 公事―年貢以外の雑税	101
(二) 夫 役	102
三 物資の流通と錢貨	103
(一) 流 通	103
(二) 錢 貨	103
(三) 土 倉	104
四 農業技術の發達	105
(一) 灌漑用水	105
(二) 施肥の普及	105
(三) 農具の普及	106
(四) 稲作の進歩	106
五 衣食住生活	107
(一) 衣 料	107
(二) 食 事	107
(三) 住 居	107
(四) 年中行事	107
六 社会風潮と生活	108
(一) 武 士	108
(二) 農 民	109
(三) 風 俗	110
第四節 交 通	110
一 京都への道	110
二 鎌倉への道	111
第五節 中世の文化	113
一 諏訪信仰	113
(一) 諏訪信仰圏内の南箕輪	113

(一) 南箕輪の諏訪社	114
(二) 地名の由来	115
(三) 御射山神社	116
(四) 御射山神社	116
1 御射山社再興の訴え(碑)	116
2 『西箕輪村誌』の御射山神社跡	117
3 別当寺(普光寺)	118
4 分祀された御射山社	118
5 御射山祭の推移	119
6 御頭祭への招待状	120
7 灌 神 事	123
8 大泉の鹿祭り	127
二 八幡信仰	130
三 熊野信仰・津島信仰	133
(一) 熊野信仰	133
(二) 津島信仰	133
四 口碑による中世の古跡	133
1 天皇(陵墓)	133
2 郷士が窪	133
3 猪の子芝	134
4 五輪塔	134
5 権理塚	134
6 経 塚	135
第六節 中世から近世へ	136
一 近世への第一歩―武田支配	136
二 目まぐるしい支配者の交代	137
(一) 信長支配(二か月)	137
(二) 家康支配(普沼定利)	137

(三) 真田支配(一年)……………	二六	(三) 飯島役所と松本役所(江戸時代後期)……………	二五
(四) 秀吉支配(毛利・京極)……………	二六	(二) 村の構成……………	二五
(五) 再び家康支配……………	二六	1 村方三役……………	二五
三 「村」の時代へ……………	二六	2 名 主……………	二五
第三章 村の近世……………	二四	3 組頭・百姓代……………	二五
第一節 村のなりたち……………	二四	4 五人組……………	二五
一 村々(区)の概要……………	二四	(三) 村定めと御触書……………	二五
二 村々の由来と推移……………	二四	1 御 触 書……………	二五
(一) 久保村……………	二四	2 五人組帳前書……………	二五
(二) 塩ノ井村……………	二四	3 村 定 め……………	二五
(三) 大泉村……………	二四	4 近世の特色……………	二六
(四) 北殿村……………	二四	(四) 村の明細……………	二六
(五) 南殿村……………	二四	1 南殿村差出帳……………	二六
(六) 田畑村……………	二五	2 高 札 場……………	二六
(七) 神子柴村……………	二五	3 村役人の給料……………	二六
(八) 沢尻村……………	二五	4 郷 藏……………	二六
(九) 南原区……………	二五	5 農閑期の稼ぎ……………	二六
(一〇) 大芝区……………	二五	6 酒 屋……………	二六
(一一) 北原区……………	二五	7 鉄 砲……………	二六
(一二) 中込区……………	二五	8 入 会 山……………	二六
第二節 村の姿……………	二五	(五) 人別帳・宗門帳と戸口……………	二七
一 領主と村……………	二五	1 人別改帳……………	二七
(一) 領主の交替……………	二五	2 宗門改帳……………	二七
1 田中城から木下陣屋へ(江戸時代前期)……………	二五	3 江戸時代の南箕輪における戸口……………	二七
2 松島陣屋と飯島陣屋(江戸時代中期)……………	二五	二 検地と年貢……………	二七
		(一) 検 地……………	二七
		1 土地調査の歴史……………	二八

2	天正の検地（太閤検地）	一八一
3	江戸時代の検地	一八一
4	江戸時代の検地の方法	一八六
5	検地と農民の対応	一八九
(一)	貢租（農民の負担）	一九一
1	農民負担の種類	一九一
2	貢租の割り付け	一九五
3	貢租の徴収	一九九
4	各時代の貢租	二〇一
5	箕輪領の安石代	二〇五
三	村人の生活	二〇八
(一)	近世の農業経営	二〇八
1	耕地	二〇八
2	農業経営の構造	二一〇
(二)	近世の農業技術	二一三
1	土地と用水	二一三
2	作物の種類・品種	二一三
3	育苗	二一六
4	田植と畑作物の播種	二一六
5	肥料	二二〇
6	管理と病虫害防除	二四三
7	作物の収穫と収量	二四四
8	畑作物の輪作体系	二四六
(三)	近世の商工業と金融	二四七
1	商工業活動	二四七
2	近世における金融	二五六
四	災害と飢饉	二六三

1	災害の頻度	二六三
2	災害（凶作と飢饉）の実態	二六四
3	凶作・飢饉の対策	二六九
第三節	道と往来	二七〇
一	伊那街道（三州街道）と宿	二七四
(一)	街道の設立経過と道筋	二七四
1	伊那街道	二七四
2	春日街道	二七六
(二)	大泉北殿合宿	二七七
1	宿場の成立と形態	二七七
2	宿役人	二八一
3	人馬の継ぎ立て	二八二
4	北殿村と大泉村伝馬役の紛争	二八四
二	中馬	二八六
(一)	概説	二八六
(二)	伊那の中馬	二八六
(三)	中馬紛争	二八八
1	百姓馬の付け通し	二八八
2	宿場の既得権	二九〇
3	中馬慣行の公許	二九一
4	中馬制度の定着	二九六
(四)	中馬の特質	二九六
三	権兵衛街道と助郷	二九八
(一)	権兵衛街道の開通	二九八
(二)	助郷	三〇〇
1	助郷制度	三〇〇
2	助郷が課されてくる手順	三〇三

(三) 南箕輪地域各村の助郷……………	三〇三
1 大泉村の助郷の始まり……………	三〇三
2 神子柴村・久保村の助郷の始まり……………	三〇四
3 北殿村の助郷の始まり……………	三〇四
4 田畑村・南殿村の助郷の始まり……………	三〇五
四 助郷の苦しみ……………	三〇五
1 助郷の農作業への影響……………	三〇五
2 助郷の村負担の増加……………	三〇六
3 頻繁な助郷回数……………	三〇七
4 村々相互間の対立と訴訟……………	三〇八
5 助役不参加の厳しいとがめ……………	三〇八
6 助村と休村・休役延長の嘆願……………	三〇九
7 助郷の免除嘆願……………	三〇九
四 天竜川通船・渡し舟……………	三〇九
(一) 通船の開始まで……………	三〇九
1 最初の通船願い書……………	三〇九
2 通船差し障り問題の解決……………	三一一
3 通船の再願いと請書……………	三一一
(二) 通船営業の仕様……………	三二七
(三) その後の経営……………	三三〇
四 橋と渡し舟……………	三三三
1 橋について……………	三三三
2 渡し舟について……………	三三三
第四節 学芸と教育……………	三三四
一 俳文学……………	三三四
(一) 談林風時代の俳文学……………	三三四
(二) 美濃派風時代の俳文学……………	三三五

(三) 蕉風時代の俳文学……………	三三七
二 和歌……………	三三三
三 近世の教育……………	三三五
(一) 寺子屋・私塾教育……………	三三五
(二) 奉公人の教育……………	三三九
(三) 若者制度……………	三四〇
第四章 水と村の生活……………	三四一
第一節 水を求めて……………	三四一
一 水と村……………	三四一
二 西部地帯(台地)の水……………	三四一
(一) 大泉村の湧水状況……………	三四一
1 井戸……………	三四一
2 井堰……………	三四二
3 大泉川の締め切り……………	三四三
4 漏水……………	三四四
(二) 大泉の井堰……………	三四五
1 下井……………	三四五
2 上井……………	三四九
3 新井……………	三七七
4 大泉川水系の大水論……………	三六三
(三) 大泉の横井戸……………	三九四
1 村内横井戸の概況……………	三九四
2 大泉の横井戸……………	三九七
3 大泉の深井戸……………	四〇一
四 沢尻と水……………	四〇二

1	沢尻の水不足	四三一
2	田用水計画	四三二
(四)	開拓地の求めた水	四三五
三	段丘沿いの村々と水	四三五
(一)	段丘ぞいの湧水	四三五
(二)	水を求める紛争	四三六
1	久保の飲用水	四三六
2	北殿の天竜井	四三七
3	分水にかかわる水論	四三九
4	天竜川をはさんで	四四〇
5	扒樋と横井戸	四四二
四	遠くから求めた水	四四三
(一)	西天竜道水路(前史)	四四三
1	江戸時代の開発計画	四四三
2	明治の開発計画	四四六
3	西天竜誕生とその後	四四六
(二)	伊那土地改良事業	四四七
(三)	奈良井川引水計画	四四七
(四)	伊那西部農業水利事業	四四七
五	道	四四八
(一)	簡易水道	四四八
(二)	村営上水道	四四八
1	村営水道事業の発足	四四八
2	水源を求めて	四四九
(三)	その他の水道	四五一
1	滝洗簡易水道	四五一
2	神子柴簡易水道	四五一

3	南原水道	四四四
4	西原・中野原水道	四四四
5	沢尻の水道(伊那市営水道)	四四四
(四)	上伊那広域水道計画	四四四
第二節	水との闘い	四四五
一	江戸時代における農民の水との闘い	四四五
(一)	災害の実態	四四五
(二)	川除け(洪水対策)	四四九
1	築堤と水制工	四四九
2	洪水時の対応	四五〇
3	川除け御普請とその負担	四五〇
4	普請の頼度	四五〇
(三)	起き返り(水害地の復旧)	四五〇
(四)	洪水によって起こった争論	四五〇
二	明治以後における水との闘い	四五〇
(一)	災害の実態	四五〇
(二)	明治以後の洪水防止対策	四五〇
1	明治初期の実態と水防の考え方	四五〇
2	河川管理区分と水防施設	四五〇

第五章 入会山野と村の生活

第一節	近世農民の生活と入会地	四五八
一	入会地の重要性	四五八
二	入会の成立と入会権の確立	四五八
三	南箕輪に関係ある入会山野	四五八

四 入会山野の利用の定め	四九〇	第四節 入会山野の整理と秣野の分割	五二
(一) 山野草の刈り取り	四九二	一 入会秣野の初期の分割	五二
1 刈敷刈り	四九二	(一) 北原の分割	五三
2 朝草刈り	四九三	(二) 大芝原の分割	五三
3 秋の干草刈り	四九三	二 入会山野の整理	五五
4 葛葉取り	四九三	三 入会原野の後期の分割	五七
5 萱山	四九三	(一) 共有原野分割に至る時代の大勢	五七
(二) 薪の採取と用材の利用	四九三	(二) 中野原の分割	五八
(三) 稼ぎとしての入会地利用の制限	四九四	(三) 北原・大芝原の分割	五九
(四) 入会地利用の模式図	四九五	(四) 三本木原・上ヶ溝原・牛馬飼場の分割	五三
第二節 入会地の争論	四九六	(五) 入会分割地の交換	五八
一 入会地争論の概要	四九六	第五節 森林の育成と部落有原野の村有化	五九
二 主要な入会地争論	四九九	一 森林の育成(林業の発展)	五九
(一) 真虫平の公事と裁許	四九九	(一) 森林の保護育成の重要性の認識	五九
(二) 北原秣場出入り	五〇〇	(二) 植林の励行	五九
(三) 三本木原・上ヶ溝原・大芝原の争論	五〇二	(三) 森林の保護育成	五三
(四) 大泉所たる一件争論	五〇三	二 部落有林野の村有への統一	五五
第三節 近代における入会地の変化	五〇三	一 入会山の分割	五九
一 地租改正と入会地	五〇三	(一) 大正五年の分割協定覚書成立	五九
(一) 筑摩県下における入会山野の地租改正	五〇三	(二) 大泉所山の分割	五〇
(二) 長野県下における再調査	五〇五	(三) 北沢山および南沢山の分割	五〇
二 明治以後の入会地の利用と保護	五〇七	(四) 蔵鹿山の分割と入会権の整理	五〇
(一) 入会地の利用	五〇七	(五) 御射山の分割	五〇
(二) 入会地の保護	五〇〇	(六) 蔵鹿山の内矢ノ南入りの分割	五三

二 分割後の運営と村有統一化	五五六	(四) 『天狗勢の本州縦断』	五九八
(一) 大泉所山・北沢山の村有統一化	五五六	三 おかげ参り	五九〇
(二) 蔵鹿山・御射山・矢ノ南入りの管理運営	五五七	四 維新と村人の動き	五九二
第七節 昭和の森林育成とその経営	五五九	第二節 南箕輪村の誕生	五九四
一 大泉所山の植林	五五九	一 誕生とその経過	五九五
二 北沢山の植林	五六一	二 飛 地	五九一
三 平地林の経営	五五三	第三節 地租改正と村人の生活	五九三
四 蔵鹿山・御射山等の植林	五五五	一 明治初期の税制	五九三
五 村有林の利用と村財政	五五七	二 地租改正	五九三
(一) 下枝・落葉等の利用	五五七	(一) 地租改正の意義	五九三
(二) 立木の伐採売却と村財政	五五七	(二) 田・畑・宅地の地租改正	五九四
六 林道の開設	五五八	三 山林原野の地租改正	五九八
第八節 昭和における平地林の開墾・開発	五五九	四 地租改正による「改め出し」と増税	五九九
一 西天竜完成による開田	五五九	五 地租軽減運動と地価修正	六〇一
二 戦時体制下の開墾	五五九	六 地租改正と其後の農民	六〇三
三 戦後の入植開拓と部落有財産の処分	五六一	第四節 村の行財政・金融	六〇三
第六章 村の発展	五五三	一 村の行政	六〇三
第一節 明治維新と村人の動き	五五三	(一) 明治前期の村政	六〇三
一 平田学と神葬復礼	五五三	1 尾州藩取締所管下へ	六〇三
二 水戸浪士北殿宿通過	五五四	2 伊那県管下へ	六〇五
(一) 今様奇談	五五四	3 筑摩県管下へ	六〇七
(二) 高遠様一発もなし	五五五	4 長野県管下へ	六〇九
(三) 北殿宿通過	五五五	(二) 明治後期の村政	六〇五
四 浪士追い打ちの通行	五七七	1 町村体制の形成	六〇五
		2 郡制(発足・廃止)と村政	六〇七
		(三) 大正期の村政	六〇八

1	陋習の打破	六八
2	区制の発足と推移	六九
3	米騒動と関東大震災	七二
4	教育条件の整備	七三
5	その他の村政	七三
四	昭和前期の村政	七三
1	昭和恐慌と村政	七三
2	役場庁舎の改築	七七
3	村有林施業基案	七八
4	村政運営の発展	八〇
5	教育用地の寄附	八〇
6	戦時体制下の村政	八三
二	村の財政	八五
(一)	市町村制以前の村の財政	八五
(二)	市町村制実施から大正時代の村財政	八九
(三)	昭和経済恐慌・戦時体制下の村財政	九一
四	太平洋戦争後の村財政	九三
三	金融の発展	九六
(一)	従来からの方式による金融	九六
1	土地売買による金融	九八
2	無 尽	九八
(二)	新しい制度による農村金融	九九
1	開 産 社	九九
2	銀行の創立と農工銀行	一〇〇
3	郵便局と庶民金融	一〇三
(三)	産業組合―農業会	一〇三
四	戦後の農村金融	一〇五
1	戦後の金融の混乱と公益質屋	一〇五
2	農業協同組合	一〇六
3	特殊銀行の設立と制度金融の発展	一〇六
四	産業組合・農業会	一〇六
(一)	南箕輪村の産業組合	一〇六
1	産業組合の設立	一〇六
2	経営困難な草創期	一〇六
3	産業組合再建の努力	一〇六
(二)	南箕輪村農業会	一〇六
第五節	生産の発展	一〇六
一	新時代への産業の模索	一〇六
(一)	明治初年の産業の概況	一〇六
(二)	新時代への産業の模索	一〇六
1	開産社の融資からみた産業開発	一〇五
2	水 産 業	一〇五
3	鉱産物試掘	一〇七
4	農 談 会	一〇七
5	牧牛の企て	一〇六
二	農業の歴史と技術の発展	一〇六
(一)	明治時代の農業の進歩	一〇六
1	新作物・家畜の導入と改良	一〇六
2	稲作技術の発展	一〇六
(二)	大正より昭和前期の農業	一〇七
1	金肥施用量の増加と緑肥栽培の奨励	一〇七
2	病虫害防除技術の進歩	一〇七
3	農具の進歩	一〇七
4	農業会の活動と農業の進歩	一〇七

5	昭和の経済恐慌と農村	六八
6	稲作技術の発展	七〇
(三)	戦時体制下の農業	七〇
1	戦時統制と食糧増産	七〇
2	諸物資の不足と農民の協力	七〇
3	労力の不足と共同作業	七〇
三	養蚕業の発展と衰退	七二
(一)	明治時代の養蚕	七二
1	養蚕発展の概要	七二
2	桑の栽培	七三
3	飼育法	七四
(二)	大正時代・養蚕の最盛期	七六
1	概況	七六
2	桑の肥培管理	七七
3	養蚕法の進歩	七八
(三)	昭和前期の養蚕の衰退	八〇
1	概況	八〇
2	栽桑と飼育技術の発達	八〇
四	昭和後期(戦後)の養蚕	八一
1	概況	八一
2	栽桑と飼育技術の進歩	八二
(四)	蚕種製造業	八四
四	西天竜の開田	八五
(一)	西天竜水路	八五
1	概要	八五
2	西天竜用水開発まで	八六
3	西天竜用水路の開発	八六

(二)	南箕輪における西天竜の開発	八六
1	開田の経過	八六
2	開田工事の方法と苦勞	八〇
3	西天竜開発による土地利用状況の変化	八三
4	大泉耕地整理	八三
5	開田当時の農家経済	八五
6	工事費の償還	八六
(三)	西天竜農業倉庫	八七
(四)	まとめ	八八
五	畜産および園芸の導入	八八
(一)	畜産の導入	八八
1	明治・大正期	八八
2	昭和の経済恐慌以後	九〇
(二)	園芸の導入	九〇
1	明治・大正期	九〇
2	昭和前期の園芸の発展	九一
六	商工業の発展	九三
(一)	商業	九三
1	明治初年の商業	九三
2	明治中期の商業	九四
3	明治後期から大正・昭和初期の商業	九四
4	戦時統制下の商業	九六
(二)	工業	九六
1	職人	九六
2	手工業	九七
3	製糸業	一〇〇
第六節	戦争と南箕輪	一〇五

一 戦争と南箕輪	七五	2 権兵衛街道	七五
(一) 西南戦争	七五	3 その他	七五
(二) 徴兵制度	七五	(三) 近代的交通路	七五
(三) 日清・日露戦争	七五	1 中央自動車道	七四八
1 日清戦争	七五	2 大規模農道の開通	七四八
2 日露戦争	七六	3 その他	七四八
(四) 戦時体制と太平洋戦争	七七	二 運輸事情の変遷	七四八
1 太平洋戦争の始まるまで	七七	(一) 中馬から運送馬車へ	七四九
2 太平洋戦争と敗戦	七九	1 伝馬所から陸運会社、内国通運会社へ	七四九
(五) 慰霊碑・戦没者名	七三〇	2 中牛馬会社	七五〇
二 満洲開拓団と満蒙開拓青少年義勇隊	七三三	3 両会社の対立と合併	七五〇
(一) 満洲移民の概要	七三三	4 運送馬車へ	七五一
(二) 満洲移民の気運	七三五	(二) 人力車・乗合馬車・自転車	七五
(三) 本村からの開拓移民	七三五	1 人力車・乗合馬車・自転車	七五二
1 水曲柳開拓団	七三五	2 大正時代の交通	七五二
2 中和鎮信濃村開拓団	七三六	(三) 伊那電気鉄道から飯田線へ	七五三
3 富貴原郷への入植	七三六	1 伊那電車の開通	七五三
4 開拓の終末	七三六	2 伊那電と運輸	七五三
(四) 満蒙開拓青少年義勇隊	七四一	3 飯田線へ	七五三
1 概要	七四一	(四) 自動車交通の発達	七四
2 本村関係義勇隊開拓団	七四一	1 バス	七四
3 物故者慰霊像の建立	七四四	2 トラックによる貨物輸送	七五
第七節 交通の発達	七四四	3 自動車類の著しい増加	七五
一 道路事情の変遷	七四四	三 天竜川通船・渡し舟・橋	七五
(一) 伊那街道の発展	七四四	(一) 天竜川通船	七五
(二) その他の道路	七四七	(二) 渡し舟	七五
1 春日街道	七四七	(三) 橋	七五

第八節 生活の近代化……………六二

一 消防・駐在所……………六二

(一) 消防……………六二

1 明治以前の村の消防……………六二

2 各村消防組の誕生……………六三

3 消防組織の発展……………六三

4 大正期における消防組……………六四

5 警防団の設置……………六四

6 自治体消防団の発足……………六四

(二) 南箕輪村日赤奉仕団……………六六

(三) 駐在所……………六七

1 駐在所の誕生……………六七

2 新警察制度の発足……………六七

3 犯罪を防止し平和な村に……………六八

二 保健衛生……………六八

(一) 村の保健衛生……………六九

1 伝染病予防対策と治療……………七〇

2 清潔法の実施……………七〇

3 乳幼児検診……………七〇

4 国民体力検査……………七〇

5 伝染病隔離病舎……………七〇

6 村診療所……………七〇

三 郵便・電信・電話・有線……………七一

(一) 郵便……………七一

1 明治初期の郵便……………七一

2 南箕輪郵便局の沿革……………七二

3 南箕輪郵便局の現況……………七三

(二) 電信・電話……………七四

1 電信……………七五

2 電話……………七六

3 有線電話……………七七

四 報道……………七九

(一) 南箕輪村勢要覧と村報「南みのわ」……………七九

1 村勢要覧……………七九

2 村報「南みのわ」……………七九

(二) 新聞……………八〇

1 南箕輪の新聞……………八〇

2 一般紙の購読……………八〇

(三) ラジオ・テレビ……………八一

1 ラジオ……………八一

2 テレビ……………八一

第九節 文化と教育……………八二

一 学芸……………八二

(一) 短歌……………八三

1 明治以後和歌・短歌の流れ……………八三

2 国学者並びに平田門系の和歌……………八四

3 潮音系の短歌……………八六

4 アララギ・ヒムロ・流域系その他の短歌……………八八

(二) 俳諧から俳句へ……………八〇

(三) 川柳文芸……………八五

(四) 童話・その他……………八五

1 童話……………八五

2 数学……………八六

3 漢詩……………八六

二 教育の発展……………八六

(一) 就学前教育……………	八〇七	(四) 大正から昭和初期の村の教育……………	八三三
1 保育所の教育……………	八〇七	1 校庭拡張……………	八三三
2 小学校との連絡……………	八〇九	2 子守児童……………	八三三
3 小学校の就学前教育……………	八〇九	3 南箕輪事件……………	八三三
三 学校教育の発展……………	八二〇	4 校舎増築・体操場新築……………	八三三
(二) 明治初期の村の教育……………	八二〇	(五) 昭和初期から戦時下の村の教育……………	八三三
1 郷学校の創立……………	八二〇	1 二・四事件……………	八三三
2 「学制」時代の教育……………	八二三	2 色刷り教科書の使用……………	八三四
(三) 明治中期の村の教育……………	八二四	3 戦時期の学校……………	八三四
1 南箕輪学校の誕生……………	八二四	4 南箕輪青年訓練所設置……………	八三五
2 「教育令」の実施による村の教育……………	八二五	5 南箕輪青年学校設置……………	八三五
(四) 明治後期―明治二〇年以後の村の教育……………	八二六	6 疎開児童の受け入れ……………	八三六
1 「小学校令」の施行……………	八二六	7 国民学校生徒の戦争協力……………	八三六
2 「学年制」の開始と教育の実際……………	八二六	(六) 新学制による村の学校の歩み……………	八三六
3 小学校令による教育課程……………	八二六	1 敗戦による教育の急転回……………	八三七
4 小学校制度の整備と教育目的の明確化……………	八二六	2 新しい教育への模索……………	八三七
5 支校、派出所の統合、南箕輪尋常小学校……………	八二七	3 新学制の実施・中学校の誕生……………	八三七
6 学校火災と建築……………	八二七	4 教育委員会の発足……………	八三六
7 学校林の設置……………	八二八	5 週五日制の実施……………	八三六
8 補習科設置……………	八二八	6 新しい教育計画……………	八三六
9 南箕輪尋常高等小学校……………	八二八	7 校歌の制定……………	八三六
10 実業補習学校設置……………	八二九	8 新しい教科書の採択……………	八三六
11 御真影の奉戴・奉安殿……………	八三〇	9 委託児童の契約……………	八三六
12 義務教育の延長と教科目……………	八三〇	10 学校給食……………	八三〇
13 学齢児童保護会の発足……………	八三二	11 PTAの活動……………	八三三
14 校舎増築……………	八三二	(七) 南箕輪中学校の歩み……………	八三三
15 特別学級の設置……………	八三二	(八) 村内にある県立と国立学校……………	八三三

1	伊那技術専門学校	八三三
2	上伊那農業高等学校	八三三
3	信州大学農学部	八三三
四	社会教育	八三四
(一)	概説	八三四
(二)	社会教育諸団体	八三五
1	概説	八三五
2	青少年団体	八三五
3	婦人団体	八三七
4	老人団体	八三九
5	青少年健全育成協議会	八四一
6	社会体育団体	八四三
(三)	社会教育施設	八四四
1	文化的施設	八四四
2	スポーツ施設	八四六
第七章	新しい南箕輪	八四七
第一節	人口と職業	八四七
一	戸口の推移	八四七
(一)	人口の推移	八四七
1	明治初年より大正五年ごろに至る人口増加期	八四七
2	大正五年ごろより昭和一九年に至る人口漸減期	八四七
3	昭和二〇年より同二五年に至る人口変動期	八四七
4	昭和二六年から同三五年までの人口漸減期	八四七
5	昭和三六年以降の人口急増期	八四七
(二)	戸数・世帯数の増加	八四九

(三)	部落別世帯数・人口の推移	八五二
二	人口動態	八五三
(一)	自然的増減	八五三
1	出生率	八五三
2	死亡率	八五三
3	自然的増減率	八五三
(二)	社会的増減	八五三
1	転出	八五三
2	転入	八五三
3	社会的増減	八五三
三	人口構成	八五三
(一)	年齢別人口構成	八五三
(二)	年少・生産年齢・老齢の人口構成	八五三
四	村人の職業	八五三
(一)	産業別人口構成	八五三
(二)	就業上の地位別人口	八五三
(三)	農業従事者について	八五三
第二節	戦後の村政	八五三
一	戦争後遺症の克服と村政	八五三
(一)	飢餓からの脱出のための村政	八五三
(二)	衣・住・職業等の回復のために	八五三
1	衣・住の回復	八五三
2	村営製紙工場の設置計画	八五三
3	授産所の設置	八五三
二	農村および村政の民主化	八五三
(一)	農地改革	八五三
(二)	村政の民主化	八五三

1	南箕輪村協議会	八六三
2	地方自治体の成立	八六三
3	村議会活動の発展	八六四
三	昭和二〇～三〇年代の諸施策	八六六
(一)	新しい社会に適應する施策	八六六
1	中学校校舎の建築	八六六
2	公民館の設置	八六六
3	有線放送の設置	八六六
(二)	福祉向上のための施策	八六六
1	国民健康保険事業の村営化	八六六
2	養老院の建設	八六七
(三)	産業発展のための施策	八六七
1	土地改良事業の推進	八六七
2	工場誘致	八六八
四	昭和四〇年代を主とした村政	八六八
(一)	中央自動車道と村政	八六八
1	ルート発表まで	八六八
2	設計協議	八六八
3	西部開発事業	八六九
(二)	農業振興地域整備計画	八六九
1	概要	八六九
2	農用地利用計画	八七〇
3	農業生産基盤の整備・開発計画	八七一
(三)	都市計画	八七三
1	用途地域	八七三
2	都市計画道路	八七三
3	都市計画公園について	八七五
四	地籍調査	八七五
(四)	大芝村有林の開発	八七五
1	大芝開発調査委員会	八七六
2	ゴルフ場開発問題とスポーツ公園の発足	八七六
3	ゴルフ場賃貸借契約の成立	八七七
4	大芝スポーツ公園の充実発展	八七八
五	行政機構等の発展	八七八
(一)	村内行政機構の推移	八七八
(二)	町村合併の波	八八〇
(三)	百周年を迎えた村政	八八三
四	役場庁舎の新築	八八三
(四)	広域行政組合	八八三
1	伊那中央し尿処理組合	八八三
2	上伊那地域広域行政事務組合	八八四
3	大泉所山砂防ダム	八八四
4	行政事務の近代化(電算)	八八五
第三節	農業経営の変革	八八六
一	農地改革	八八六
(一)	農地改革の経緯	八八六
1	太平洋戦争戦時下の農業政策	八八六
2	戦後の農地改革	八八六
(二)	南箕輪における農地改革	八八七
1	農地の買収	八八七
2	農地の売渡し	八九三
(三)	南箕輪村の農地改革の結果とその省察	八九五
1	農家および農地事情	八九五
2	農地等の買収および売渡し状況	八九六

3 農地改革の省察……………	八六
二 入植による開拓……………	九〇
(一) 戦後における入植開拓の概要……………	九〇
(二) 南原における入植開拓……………	九三
1 入植者と開拓に至るまで……………	九三
2 其の後の開拓の進捗……………	九四
3 開拓者の苦勞……………	九五
(三) 大芝原における入植開拓……………	九二
1 大芝原開拓の概要……………	九二
2 大芝原開拓と青年運動……………	九四
3 戦後の開拓と農民大会……………	九五
4 大芝原開拓と水……………	九六
(四) 北原における開拓……………	九八
三 農業経営の近代化……………	九九
(一) 戦後の食糧増産時代……………	九九
(二) 農地改革後の農業……………	一〇〇
1 保温折衷苗代の普及……………	一〇〇
2 品種改良と優良種子の普及……………	一〇〇
3 農薬の進歩……………	一〇二
4 施肥法の改善……………	一〇三
(三) 新農村建設の動き……………	一〇三
(四) 農業の機械化と労働生産性向上……………	一〇三
四 農家の階層分化と兼業農家の増加……………	一〇七
(一) 農業経営の階層分化……………	一〇七
(二) 兼業農家の増加……………	一〇九
五 農業基本法と農業構造改善……………	一〇三
(一) 新しい農業への課題と農業基本法……………	一〇三
(二) 南箕輪における第一次構造改善事業……………	一三三
(三) 畑作総合改善パイロット地区設置事業……………	一三一
(四) 第二次構造改善事業……………	一三三
1 北部地区構造改善事業……………	一三三
2 南部地区構造改善事業……………	一三四
(四) 西部農業開発事業……………	一三五
(六) その他の農業振興事業……………	一三八
六 畜産および園芸の発展……………	一三七
(一) 畜産の発展……………	一三七
1 戦後の畜産の発展……………	一三七
2 畜産経営の多頭化・專業化……………	一三九
(二) 園芸の発展……………	一四一
1 戦後の果樹園芸の発展……………	一四一
2 戦後の野菜園芸の発展……………	一四二
3 選択的拡大、米の作付制限と園芸農業……………	一四三
4 花卉園芸の発展……………	一四五
七 米の作付制限と総合農政への対応……………	一四五
八 農業協同組合……………	一四八
(一) 南箕輪農業協同組合……………	一四八
1 農業協同組合の設立と発展……………	一四八
2 農業近代化適応事業……………	一四九
3 業績の推移……………	一五〇
(二) 伊那農業協同組合……………	一五〇
1 上伊那中部八農協の合併……………	一五〇
2 伊那農協の発展……………	一五五
第四節 商工業の発展……………	一六〇
一 田園工業都市への歩み……………	一六〇

(一) 第一次産業から第二・第三次産業へ……………	九六〇
(二) 製造業の発展……………	九六〇
(三) 建設業等の推移……………	九六三
(四) 工業振興策……………	九六三
1 工場誘致条例の制定……………	九六三
2 都市計画の策定による工業振興策……………	九六四
3 企業振興条例制定……………	九六四
(五) 村内工業名鑑……………	九六五
(六) 村内の大工場……………	九六七
1 大明化学工業株式会社……………	九六七
2 興亜電工株式会社中央工場……………	九六八
3 株式会社フォルテ……………	九六八
4 信英通信工業株式会社西駒工場……………	九六九
5 信英畜電器箔株式会社……………	九六九
二 戦後商業の発展……………	九七〇
(一) 商業発展の概要……………	九七〇
(二) 村内商業名鑑……………	九七一
三 商 工 会……………	九七三
第五節 新しい生活……………	九七五
一 公民館活動……………	九七五
(一) 公民館の誕生……………	九七五
(二) 各区公民館(分館)の建設……………	九七七
(三) 南箕輪公民館の建設……………	九七六
四 公民館活動の場としての各種施設……………	九七六
1 南箕輪郷土館の建設……………	九七六
2 各種体育施設……………	九七八
(五) 主な公民館活動……………	九七八
1 学級・講座等……………	九七九
2 生活改善運動……………	九八〇
3 成人式……………	九八一
4 文化祭……………	九八一
5 各種スポーツ大会……………	九八二
6 各区公民館(分館)活動……………	九八三
二 厚生福祉・衛生……………	九八三
(一) 保 育 所……………	九八三
1 保育所開設の要望……………	九八三
2 保育所の設置……………	九八三
(二) 厚生福祉行政の発展……………	九八五
1 社会福祉協議会……………	九八七
2 民生委員協議会……………	九八八
3 国民年金……………	九八八
(三) 厚生福祉施設……………	九八八
1 老人集会施設(赤松荘)……………	九八八
2 南箕輪老人ホーム……………	九八九
3 大芝スポーツ公園……………	九八九
4 村民体育館……………	九八九
四 保健衛生の進歩……………	九九三
1 戦後の保健衛生行政……………	九九三
2 保健センター……………	九九三
3 多様化する保健衛生業務……………	九九五
4 国民健康保険……………	九九五
5 福祉医療……………	一〇〇〇
6 健康づくり推進協議会……………	一〇〇一
7 食生活の改善推進協議会……………	一〇〇三

8	南箕輪村健康増進推進員	1001
第六節	南箕輪村の課題と展望	1001
(一)	南箕輪総合計画書	1001
1	昭和五〇年代村の地域的課題と評価	1001
2	昭和五〇年代村の分野別課題と評価	1003
(二)	昭和六〇年代の村の課題	1004

卷末付表

一、	歴代役職者一覧表	1007
二、	南箕輪村誌歴史編年表	1011
	主なる資料提供者	1051
	南箕輪村誌刊行委員(昭和六〇年度)	1053
	下巻執筆者	1053
	あとがき	1055

